

猪高緑地散策会と博士ちゃん

加藤 誓 (ちかい)

「オオイヌノフグリで別名(星の瞳)と言います。」スタッフの説明で「3月の猪高緑地棚田コース17名」の散策会が始まった。他の2コースもあり総勢45名程の参加者であった。



笠を被って踊っている様の「ヒメオドリコソウ」を見つけ、しゃがんで写真を撮っていると、

突然「ベッコウダケだ！」と青い自転車ヘルメット着用の子が叫んだ。

「これは、樹木を枯らすキノコですよ。」同行者のひとりが、ひつつき虫のヤエムグラをその子の服に付けた。すると「これは輪生で、そのアオキは十字対生ですよ。」

えっ、何それ！私は思わず、「僕、何年生？」「4月から小学3年生になります。」

「凄く詳しいね！何で勉強しているの？」「植物図鑑です。特にキノコが好きです。」

それから、枯れた倒木や切り株に生えているキノコを見つけると、

直ちに「あっ、カワラタケだ！」「白センベイタケ、これはカイガラタケ！」「僕、このキノコは？」「マンネンタケです。」即答である。

今まで、何回か自然散策会に参加しているが、「キノコ類」の説明は余り聞いたことがなく、こちらから尋ねても「キノコは難しいので。」との返事で諦めていた。

スタッフの方も「これは何？」と小学生に聞いていた。「うーん。〇〇の類と思いますが、ハッキリしませんので帰ったら調べます。」(写真を撮ってはいないので目に焼き付けることが出来るのだろうか！その能力に、またまたビックリ！)

スタッフの方が指を刺さし「これは、キクラゲだよな？」

「はい！毛が生えているので、アラゲキクラゲと言ひ、食べられます。」と。

土曜日テレビ番組に出てくる「博士ちゃん」そのものである。

博士ちゃんを取り囲んで詳しく観察する集団が自然と出来上がり、先頭に行くスタッフの方はその集団を何度も待たなければならず「急がないと12時過ぎるよ！」と催促していた。

「ムラサキハナナ」や「フラサバソウ」「タネツケバナ」など可愛い春の花をスタッフの方に教えてもらった。明德公園で見たことがある珍しい「エンシュウムヨウラン」をここでも見つけた。

日当りの良い田んぼの土手には、まだ出始めの「セリ」や、なんと「ツクシ」が顔をのぞかせ、アマガエルの小さなオタマジャクシも泳いでいた。

5月苗代の頃に赤く色づくナワシログミの実はまだ青いが、確実に大きくなっており、満開の河津桜にも葉が出、まだ風は冷たいものの本格的な春が近づいているのを知ることが出来た。

「春は名のみ♪♪」で始まる唱歌「早春賦」の3番の歌詞

「春と聞かねば知らでありしを、聞けば急(せ)かるる胸の思いを いかにかよとのこの頃か
いかにかよとのこの頃か」(現代語訳)「春と聞かなかつたら 知らないでいたものを 聞いてしまったから 気が急かされるこの思いを いったいどのようにしたらいいのだろうか」を思い出し口ずさんだ。

どうにか予定時刻に出発地点に戻ることが出来たが、スマホの写真を博士ちゃんに見せ「これ、カエンダケだよ！珍しいでしょう！」別の方が「アミガサタケを見つけたよ！」とまだキノコ談義が続いていた。



オオイヌノフグリ



ヒメオドリコソウ



ヤエムグラ



アオイとアブラゼ



ベッコウダケ



カワラタケ



白センベイタケ



カイガラタケ



マンネンタケ



アラゲキクラゲ



ムラサキハナナ



フラサバソウ



タネツケバナ



エンシュウムヨウラン



セリ



ツクシ



ナワシログミ



カワズザクラ